

庁内実習報告会 (案)

(1) 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 就労支援部会について

庁内実習実施までの経緯

乙訓圏域障がい者自立支援協議会就労支援部会では障がい者雇用の促進と圏域内の福祉就労における工賃向上など障がいのある方の就労に関する課題に対して具体的な取り組みを検討している。

障がい者雇用の促進のためには、福祉的就労から一般就労に向けてチャレンジできる環境、障がい者の働く姿を知ってもらうことが必要と考え、市町役場という身近な場所での就労体験の機会の提供、公務労働の場での障がい者雇用の理解、企業への就労促進の機会の提供などを目的に庁内実習を始めた。

平成 29 年度から実施し、今年度で 6 年目を迎えます。実習生の延べ人数は 30 名 (R3 年度まで)。

(2) 庁内実習実施状況およびその後について

平成 28 年度から令和 3 年度

*別紙にて説明

(3) 事例報告

(4) 庁内実習を終えて ～実習生より～

- ・自信に繋がった。
- ・自分にはどのような仕事に向いているか考える材料となった。
- ・苦手意識のあった仕事内容についてその意識が薄くなった。
- ・実習に対するハードルを下がったことにより、次の実習への意欲につながった。

(5) 庁内実習を終えて ～支援者より～

- ・実習に対してハードルが高いと感じている利用者に対してチャレンジしてみようと声をかけやすい実習である。
- ・自分の住んでいる市町での実習ということで平常な態度で臨めたこと。
- ・市町の職員に働く障がい者の姿を知ってもらうことができています。
- ・実習とやり遂げたことで自信につながった。
- ・利用者の得手不得手を知ることができた。
- ・事務作業の体験ができる実習が少ない中で、貴重な実習の場である。

(6) 庁内実習を終えて ～行政より～

- ・ 個人情報に伴わない業務の切り出しに苦慮した。
- ・ 意義や目的が曖昧な中での実習受け入れはしにくい。
- ・ どこにどのような仕事があるのか探す作業ができた。
- ・ 実習生に対して業務を説明したり、やる手順を説明をわかりやすくした工夫は、職員に対して説明するときや、業務の正確性を担保するために使える。
- ・ 対応する職員がより対象者を理解することにつながる。
- ・ 企業に障がい者雇用の促進を進めていくには、業務の切り出しはその人に合わせてすることもできるのではないか。
- ・ 事業所に働く障がい者の理解をしてもらうことが今後の就労促進に必要。
- ・ 意欲を感じることもできた。

(7) この5年間をふりかえって。そして今後に向けて

- ・ 次のステップに結びつく実習となっている。
- ・ 就職（就Aを含む）した人は16名。
- ・ 一般就労に向けて実習を重ねたり、実習を通じて見つかった課題を支援に活かしたりして、就労に向けた訓練を継続している人が12名。
- ・ 就労に対する意欲の維持向上につながっている。

+ 部会員からの声を追加する。

- ・
- ・
- ・